

「定本・三國地志」の刊行に際して

上野市長 今中原夫

上野市古文献刊行会がかねて企画中の「定本・三國地志」全百十二巻を、今回復刻合装上下二冊として公刊することになりました。

「三國地志」の内容とするところは、玉曆年中編纂された伊勢・伊賀・志摩の地誌、及び三國に関する歴史資料（旧案・公案）を集大成したものであります。本書は、藤堂藩伊賀城代家老藤堂元甫が主宰して、鈴鹿の碩儒萱生由章を招聘し、更に伊賀藩字匠富士林正直・川口維言を容れて編輯陣を構え、苦心十数年を費して完成したものであります。その引用書は実に四百三十六部に及び、博搜傍引を極めています。しかも独断の弊を除くため、一事実に關する資料を列記して取捨選択の余地を讀者に任すなど、當時としては実に周到な方針のもとに編まれたものとして、定評あるところでありました。

本書はこれまで、明治二十一年川井景一によって校刊復刻（この際は伊賀の部のみ）され、更に大正五年芦田伊人によって復刻されていますが、惜しむらくは、当時の印刷技術の不備もあってか、脱字・誤植の箇所が少なからず、そのうえ附訓等が削除されていて、久しく遺憾とされて来ました。

従って、今回の刊行は、これらの不備を補うため、原著者藤堂元甫家旧蔵（現上野市立図書館蔵）の校本を底本とし、これによって誤りを補正し、振り仮名・送り仮名・返り点等まで、極めて忠実に原本どおり附記することに努めました。そのためあえて「定本」の名を冠して刊行した次第であります。尚、当刊行会においては、昨年「三國地志・凶譜」を刊行し、日下発売中でありましたが、今回「定本・三國地志」出版に際し、参考図として披益するところが多いと確信いたします。併せて活用されんことを推奨するものであります。

三國地志 卷之一

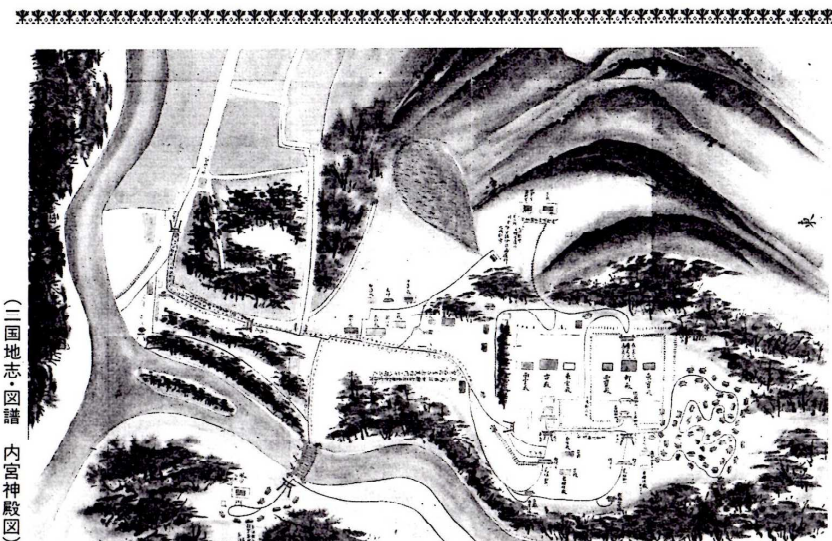
伊州司城 藤堂元甫 修
伊州 富治林正直 校
勢州 萱生由章 校

伊勢國

伊勢大神宮

内宮
延喜大神宮式曰、大神宮三座、在度會郡宇治、天照大神一座相殿神二座
垂仁紀曰、二十五年三月丁亥朔丙申、離天照大神於豐稻姬命、託于倭姬命、倭姬命求鎮坐大神之處、而詣菟田篠幡更還之、入近江國東廼美濃到伊

卷之一 伊勢國 伊勢大神宮



(三國地志・凶譜 内宮神殿図)

(刊行本内容部分第一巻巻頭)

勢國時天照大神誨倭姬命曰、神風伊勢國則常世之浪重浪歸國也、傍國可憐國也、欲居是國故隨大神、教其祠、立於伊勢國因興齋宮于五十鈴河上、是謂齋宮、則天照大神始自天降之處也。倭姬命爲御杖、實奉於天照大神、是以倭姬命以天照大神鎮坐於磯城殿櫃之本、而祠之、然後隨神誨、取于巳年冬十月甲子、遷于伊勢國渡邊宮、神名帳頭注曰、度邊郡大神宮相殿二座、手力雄梶幡姫。座崇神天皇奉遷天和五年鎮座伊勢年丁巳。

(原本凶譜部分第一巻巻頭)

大神一座相殿神二座
垂仁紀曰、二十五年三月丁亥朔丙申、離天照大神於豐稻姬命、託于倭姬命、倭姬命求鎮坐大神之處、而詣菟田篠幡更還之、入近江國東廼美濃到伊勢國、時天照大神誨倭姬命曰、神風伊勢國則常世之浪重浪歸國也、傍國可憐國也、欲居是國故隨大神、教其祠、立於伊勢國因興齋宮于五十鈴河上、是謂齋宮、則天照大神始自天降之處也。倭姬命爲御杖、實奉於天照大神、是以倭姬命以天照大神鎮坐於磯城殿櫃之本、而祠之、然後隨神誨、取于巳年冬十月甲子、遷于伊勢國渡邊宮、神名帳頭注曰、度邊郡大神宮相殿二座、手力雄梶幡姫。座崇神天皇奉遷天和五年鎮座伊勢年丁巳。